

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 2	福山市立城北中学校
最終更新日		2025年(令和7年)2月3日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、学校・教職員が自主性・自律性を発揮し「学校文化を変える仕組みをつくる」⇒「学びが面白い」と実感できる「子ども主体の学び」づくりの推進

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けて PDCA サイクルに則り実践する。	児童生徒の現状 全国学力調査の結果、校区小学校は福山市の平均正答率を上回ったが、本校は下回る結果となった。また、長欠未然防止に向けて、現状や対策を話し合い、実践した。さらに、メディアウィークを設定することで、メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかかわる力 社会貢献力 自己形成力
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・自ら考え、判断し、行動できる自律した児童生徒 ・豊かな心を持ち、お互いを尊重し、人を大切にする児童生徒
		中学校区として統一した取組等	・校区合同研修における、合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・DC教育を基に、ICTを活用した個別最適化した授業実践及び協議・交流の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組

III 自校

ミッション 福山市のリーダー校として、学びの変革を推進し郷土福山を愛する生徒を育て、地域・保護者から信頼される校区・学校にする。また、基礎的学力の定着や自ら考え学ぶ生徒を育てるとともに、心の育成を図り、城北中生徒としての品格と誇りを身につけ、「夢を実現できたのは城北で学んだから」と評価される学校をめざす。学びに向かう力・学び続ける力を育成する学校教育の推進。	新学習指導要領 資質・能力の柱	知識・技能 思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等				
学校教育目標 生徒の主体性と自律性を育み、地域社会に貢献する生徒の育成	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識 知	思考力・判断力・表現力 関	主体的に学ぶ力 主	他者とかかわる力 他	社会貢献力 社	自己形成力 自
現状 <児童生徒> 【成果】 「学ビタ3年目」を単元の中に組み込み、主体的に学ぶ力の育成に効果がある授業づくりを行うことができた。 【課題】 教員が授業づくりをサポートしながら、学ビタを行ったが、授業の質などを向上させることが困難だった。 <授業> 【成果】 生徒アンケートにおいて、授業力に関わる質問項目の肯定的評価の平均値が80%以上であった教科が9教科中2教科であった。 【課題】 全教科において、活用・探求学習を行う割合がまだ少なく、生徒自らがOUTPUT しフィードバックする場面を設定する方法や単元の構成の仕方、および教員の教材研究の仕方に課題がある。	めざす子ども像	学習したことを自ら語る。 根拠を持って、正しい判断をしている。よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方をしている。自分の考えを相手が分かりやすいように伝えられる。	自ら課題を見出し、解決しようとしている。	他者と協力して、課題を解決しようとしている。他者との関わりを通して、自らの考えを深めたり変えたりしている。	他者との共存の中で、集団の利益になることを考え実践しようとしている。	前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとしている。自らに自信を持っている。	
	研究	テーマ 内容等	自律を促す学びの創造(自ら考え、判断し、決定し行動できる児童生徒の育成を目指した授業づくり) 「教材研究」「カリキュラムマネジメント」から授業展開・学習方法を見直し、全校一斉の教科学習「学ビタ」の実施、教材研究「児童生徒観」「教材観」「指導観」→PDCA から学び続ける研修の推進				
	めざす授業の姿	知自らが学んだ知識や技能について、文章でまとめる習慣が身に付けられている。 関課題解決に向け、自らの考えや課題解決のための方法を見出すための時間や手立てが講じられている。 主関心・意欲を持って課題を見出し、課題解決の方法を考えられるような教材(題材)が提供できている。 他グループやペア等の活動を通して、協動的に課題解決に臨んだり、他者の考えをもとに自らの考えを広げたり深めたりする場面が設定されている。 社地域の課題に自ら目を向け、自分にできることはないかを考え行動化させている。 自振り返りでは、学習過程における成長を評価するとともに、更なる追求課題を見いださせている。					

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城北中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力セズ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力セズ評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	自ら考え学ぶ生徒(主体性)の育成	★	継続	主体的に学ぶ意欲・態度の向上	○授業において、主体的に学ぶ意欲・態度の向上を目的に、全職員で課題を作成し、全校教科学習「学ビタ」を実施する。 ○実技教科とリンクさせ、横断的な学びを創造する。	○生徒アンケートにおいて、主体的に学ぶ意欲・態度に係わる質問項目の肯定的評価の割合を80%以上にする。	○有志生徒と学ビタ担当教員を中心に、学ビタ「福山を知ろうプロジェクト」を実施した。 ○「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだか」肯定的評価82.3%であった。 ○全国学力学習状況調査「主体的な学び」に関する9項目について、市平均687.9に対して本校734.7であった。	③	③	○難しい問題にも諦めずに挑戦しているかに関する項目は低かったため、今後も教科会で授業実践を共有して授業改善を目指す。 ○教科会で教材開発を行い、基礎学力をより高めることで、難しい問題にも積極的に取り組んでみようという意欲につなげる。	○3月19日に今年度最後の「学ビタ」を実施する予定である。有志生徒を中心に、教科横断的な学びを実施できた。 ○生徒アンケートにおいて、該当の項目の肯定的評価は86.6%であり、中間時より+4.3%であった。	④	③	③	○生徒に「わかった」「できるようになった」を実感させられる授業を行うことで、「もっと学んでみたい」という意欲を引き出す。
				自ら考え学ぶ生徒(主体性)の育成	○5月に行う学力の伸びをみとるテスト(全学年対象)及び全国学力・学習状況調査(3学年対象)において、個別の課題について分析し、校内研修において後期の学習計画を立て、それをもとに生徒面談及び授業改善を行う。	○全国学力学習状況調査(3学年)の正答率において、全教科市平均以上にする。 ○学力の伸びをみとるテスト(全学年対象)の結果がどの層の分布も右肩上がりにする。	○全国学力学習状況調査の結果から「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」に課題が見られた。全教員で課題を共有し、授業改善や教材研究に取り組む。 ○数学科において、基礎学力を向上させ、取り組める問題数を増やす。	③	③	○特に数学科において、基本的な計算技能の定着が学力の向上に繋がると考え、定期的に授業の始めに取り組めるような問題を行った。 ○スタディサブリの研修を行い、生徒個々に応じた学習ができるようにした。合わせて、不登校の生徒の支援にも使っていくようにした。	④	③	③	○次年度の全国学力学習状況調査の結果次第ではあるが、今年の取り組みの成果や課題を研究主任を中心に教職員全体で共有していく。	
				自律的に行動できる生徒の育成	○生徒会を中心とした生徒主体の学校運営の実施。(自治活動、縦割り集団を軸とした学校行事等) ○気持ちの良いあいさつが自発的にできる、地域から信頼、応援してもらう生徒を育成する。	○生徒アンケートにおいて、「学校行事について、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」「自分からあいさつをしています」の肯定的評価は92%、「自分からあいさつをしています」の肯定的評価は88%であった。	○「学校行事について、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」の肯定的評価は92%、「自分からあいさつをしています」の肯定的評価は88%であった。	③	③	○生徒会の活動を全教職員がバックアップして、生徒が課題を把握し、改善策を考えることができるように支援する体制を整える。 ○日々の授業で挨拶を徹底し、あいさつをする習慣を身につけさせる。部活動や学校行事ともリンクさせ、生徒間の交流やかかわりの中からあいさつを充実させる。	③	③	③	○自己肯定感を高めることや、共感的人間関係を高めるような取組を、日ごとの授業や学校行事に取り入れ、自信を待ってあいさつできる姿勢を育成する。	

2	教職員の 資質・能 力の向上	★	継続	専門教科の授業 力の向上	○教科会や職員 研修等で個々の 教材研究や実践 を共有しあう。 ○校内巡回を通 して、授業実践 の学び合いや生 徒の実態把握を 通した授業づく りをする。	○教職員アンケ ートにおいて、 「子どもの学び や発達への理解 をもとにカリキ ュラムを見直し 、実践している」 の質問項目の評 価を 85%以上に する。	○教科会や校内巡回を通 宜行い、実践を交流した。 ○該当のアンケート項目 の肯定的評価 82.1%であ った。 ○ただし、全国学力調査 の生徒質問紙「先生は分 かるまで教えてくれている か」市平均82.9%に対し 本校91.1%であり、生徒と の直接のやりとりは大切に して取り組んでいる。	③	②	○単元ごとのまとまり や生徒の理解の様子な どを踏まえた指導を行 えるよう、校内巡回や 各教科会の内容をより 充実させる。	○校内研修や教科会を 実施し、授業実践の交 流、指導と評価の一体 化、生徒理解・教材理解 を推進した。 ○教職員アンケートにお いて、該当の項目の肯 定的評価は 95.8%であ り、中間時より+13.7%と なった。	4	4	4	○学期の途中に も校内研修など の機会を作るこ とで、実践や意 見の交流を行 い、教職員が学 び合う機会を設 ける。
			継続	教職員の資質・ 能力の向上	城北中学校区小 中一貫教育の研 修を通した授業 力の向上を図 る。各教科のグ ループに分かれ て、小学校の学 びを中学校へ繋 げていくととも に、中学校での つまずきがどこ からきているの か検討し、個に 応じた授業づく りを進める。	○『福山 100NEN 教育』アンケート において、「人は どのように学ぶ か、何につまず かについて関心 をもち、教材研 究を行っている。」 の質問項目の評 定的評価を 90% 以上にする。	○『福山 100NEN 教育』ア ンケートにおいて、「人は どのように学ぶか、何につ まずかについて関心 をもち、教材研究を行っ ている。」の質問項目の評 定的評価は 89.3%だっ た。	③	②	○城北中学校の研究テ ーマと校区の研究をテ ーマを統一させ、小学校 からの課題を意識した 授業改善を行う。	○後期の『福山 100NEN 教育』アンケートの結果 次第ではあるが、本 校のみの数値を経年比 較したときに年々改善 されてきている。 ○今年度の城北中学校 区小中一貫教育の研修 を充実させることが できなかった。次年度 OS を導入するにあたり、 より一層小中一貫教育 の充実を図っていき たい。	4	2	3	○今年度の城北 中学校区小中一 貫教育の研修を 充実させること ができなかった が、新しい試み にチャレンジで きた。事務局を 中心に課題や反 省点を次年度に 生かしていきたい。
			継続	生徒指導の 4 つ 視 点 (自 己 決 定・自己存在 感・共感的 人間関係、 安全安心な 風土)を見据 えた、生徒指 導力の向上	○校内研修にお いて、個々の生 徒に寄り添う生 徒指導をめざ し、細やかな生 徒交流やSCに よる研修など、 生徒指導部主催 による研修等を 定期的実施す る。	○教職員アン ケートにおい て、「一斉研修 で学んだこと を、日々の授業 実践に生かし ている」の項目 の肯定的評価 を 90%以上に する。	○研修により新し い発見や取り 組みを見直す ことができる」 の肯定的評価 は 89%であっ た。 ○校内研修でグ ループ協議を通 して、日々の実 践に生かすた めに見直したり 、考えなおし たりすることが できている。	③	③	○部活動休養日を 設定し、研修の 機会を設定す ることで、教 職員の新たな 知識技能の習 得を図る。 ○また、グル ープで自由に 話し合うこと で、建設的な 議論を通して 課題発見や改 善につなげる。 ○関係機関や SC等の人材 活用を図り、 資質向上を図 る。	○研修により新 しい発見や取 り組みを見直 すことができる 」の肯定的評 価は 90% であった。 ○グループ別 の研修を通し て、個々の意 見や考え方を 交流すること で、見直した り、考えなお しすることにつ なげている。	4	4	4	教務部や研究 部と協働し、 授業を活用し た生徒理解、 実態把握を充 実させる。ま た、研修で使 った資料等を 整理し、いつ でも活用でき るようなハー ド面の支援も 充実させる。
2	地域に貢 献する学 校		継続	本校の取組や活 動の地域への発 信	○学校だより、 学年だより、保 健だより、HP、 メール配信及び 行事等におい て、本校の取組 みや活動に関 わる情報発信 を積極的に 行う。	○保護者アンケ ートにおいて、「通 信等で学校の情 報は適切に発 信されている」 の項目の評 定的評価を 90% 以上に する。	○保護者アンケ ートにおいて、 該当の項目の 肯定的評価は 82.9%であ った。 ○各種たより 及びHPは月 1～2回以上 発行(更新)し ている。	③	②	○学校だより、学 年だより、保 健だより、HP 等を定期的に 更新し、情報 を発信して いく。 ○学校関係者 評価会議にお いて意見を いただき、後 期に生か したい。	○学校関係者 評価会議(中 間)でいただいた 意見を生かし、 通信を発行す る際にはメ ール配信でも 保護者へ通 知を行った。 ○保護者アン ケートにおい て、該当の 項目の評 定的評価は 83.3% であった。	③	③	③	通信、ホーム ページ、新し くなるメール 配信システ ム等を活用 し、学校が発 信する情報 を掴んでも らえる機会 を生み出す。

		継続	地域に貢献する学校	総合的な学習の時間の前期の単元において、全学年で「地域理解・社会貢献学習」を行い、地域の方々と共に学習を深める場を設定する。	○生徒アンケートにおいて、「総合的な学習の時間の学習」を通して、地域に貢献したいという気持ちが高まりましたか。」の質問項目の肯定的評価を90%以上にする。	○生徒アンケートにおいて、「地域貢献」に係わる質問項目の肯定的評価は76.8%だった。	3	2	○各学年で中部ブロックの方や民間企業を招き、地域の方々と共に学習を深める場の設定はできている。	○後期生徒アンケートにおいて、「地域貢献」に係わる質問項目の肯定的評価は79.9%だった。	2	2	2	○チャレンジウィークのやり方含め、次年度CSを導入する観点からも、地域との連携を密に図り、城北中学校区を盛り上げていきたい。
		継続	集団の一員としての自覚を高め、責任感を育成	○学校内での美化活動に主体的に取り組めるよう、毎日の清掃や環境整備を委員会活動や学活等で喚起し、美化意識を推進するとともに、環境や物を大切にしようとする姿勢を育成する。その中で校内や地域の環境整備、環境美化を充実する。	○生徒アンケートにおいて「一生懸命清掃しています」「学校のものや環境を大切にしています」の項目の肯定的評価を90%以上にする。	○「一生懸命清掃しています」の肯定的評価は90%、「学校のものや環境を大切にしています」の肯定的評価は99%であった。 ○教室の床やロッカーなど教室環境は、全体的に整えることができている。	4	4	○生徒の美化意識を高めるために、全教職員が細かく清掃指導を行う。また、備品や環境の定期的なチェックを行い、常に整った環境で生徒に生活をさせることで美化意識の向上に努める。	○「一生懸命清掃しています」の肯定的評価は90%、「学校のものや環境を大切にしています」の肯定的評価は98%であった。 ○教室の床やロッカーなど教室環境は、全体的に整えることができている。校舎の破損等も生徒や教職員がいち早く気づき、速やかな修繕を行う事ができている。	4	4	4	○清掃区域や教職員の配置を見直し、生徒の活動を肯定的に評価することで美化意識の向上に努める。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。